

# 第3回 常磐公園の緑を考える集い ～市民協働による公園管理～



平成28年10月19日撮影



平成29年2月14日撮影

1

## I はじめに

### 1) スケジュール【予定】

#### 平成28年度

第1回 ○現在の常磐公園について（終了）

第2回 ○秋期自然環境調査報告・常磐公園の管理（終了）

第3回 ○冬期自然環境調査報告・常磐公園の自然環境

今回

#### 平成29年度～

○春夏自然環境調査・これからの常磐公園の管理

○市民協働による維持・管理の実践内容

2

### 3) 本日のプログラム

- 10:30 開会 (5分)
- 10:35 オリエンテーション (5分)
- 10:40 説明・討議 (40分)
  - 冬期自然環境調査報告
  - ブッシュの設置について
  - 来年度の「集い」の開催内容について
- 11:20 意見発表 (5分)
- 11:25 今後の予定 (5分)
- 11:30 閉会

現在

3

## II 前回の概要

### 1) 説明事項

- 秋期自然環境調査結果概要
- 自然更新ゾーンの追加、ブッシュについて

### 2) 意見交換

- 自然更新ゾーンについて、周辺の状況（樹種等）をよく把握した上で設置すべき
- 老木の管理について、周辺の樹木密度や後継木などを考慮して方針を決定すべき
- 「集い」に参加する顔ぶれが固定されている。常磐公園に思い入れがある方や子供たちの意見も聞いてみたい

4

# Ⅲ 討議・意見交換

## (1) 秋・冬期自然環境調査結果について

### 1) 自然環境調査の目的

常磐公園の改修事業完了後の環境調査を行い、環境の変化を把握するとともに、常磐公園の維持管理の手法等を検討する際の資料とするため平成28～29年度の1年間、再度自然環境調査を行います。

### 2) 進捗と予定

年度 調査項目	平成28年度		平成29年度	備考
	秋	冬	春夏	
植物調査	○	○ 前回速報部分	○	樹木調査を除く
鳥類調査	○	○	○	
両生類・は虫類 ・哺乳類調査	○	○	○	
魚類調査				
昆虫類調査	○	○ 今回分	○	
微気象調査	○	○	○	

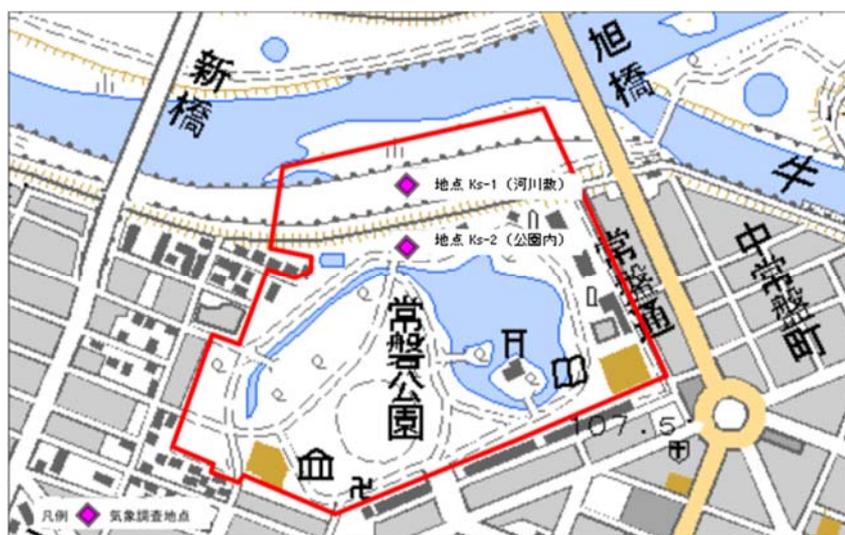
\*以降の調査結果で記載のある用語は以下の通りです。

・重要種：天然記念物の指定種や絶滅の恐れのある種のリスト（レッドリスト）に掲載されている種などの保全を要する種

・特定外来種：外来生物法により飼育や移動に制限を設けられている種

### 3) 微気象調査結果

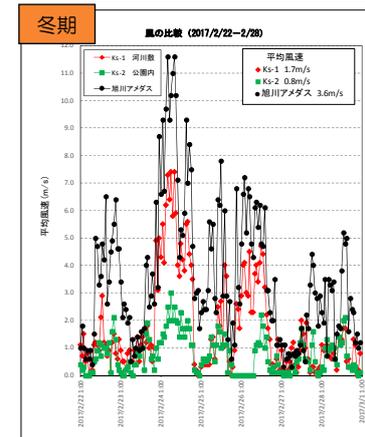
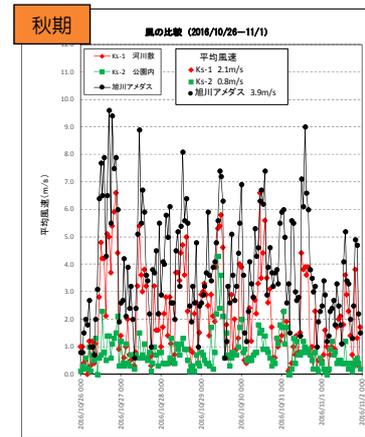
- ・ 「微気象調査」を実施しました。
- ・ 調査は以下の日程で実施しました。
  - 秋期：10月26日～11月1日
  - 冬期：2月22日～28日



# 秋・冬期自然環境調査結果について

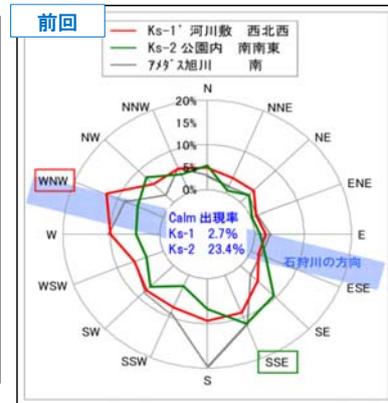
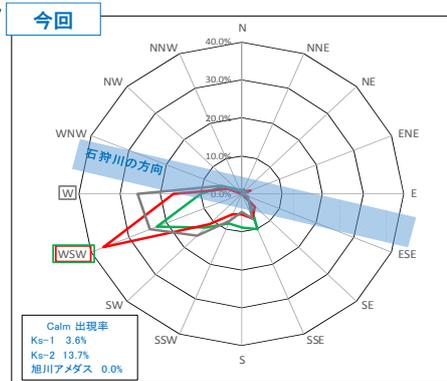
## 3) 微気象調査結果

- 秋期の結果は以下の通りでした。
  - 平均風速は、河川敷 (Ks-1) で2.1m/s、公園内 (Ks-2) で0.8m/sでした。
  - 最多風向は、河川敷 (Ks-1) ・公園内 (Ks-2) とともに西南西で、静穏 (calm: 風速0.2m/s以下) の出現率は、河川敷 (Ks-1) で3.6%、公園内 (Ks-2) で13.7%でした。
- 冬期の結果は以下の通りでした。
  - 平均風速は、河川敷 (Ks-1) で1.7m/s、公園内 (Ks-2) で0.8m/sでした。
  - 最多風向は、河川敷 (Ks-1) ・公園内 (Ks-2) とともに西で、静穏 (calm: 風速0.2m/s以下) の出現率は、河川敷 (Ks-1) で12.5%、公園内 (Ks-2) で32.1%でした。
- 公園内は、河川敷と比較して静穏となる傾向でした。

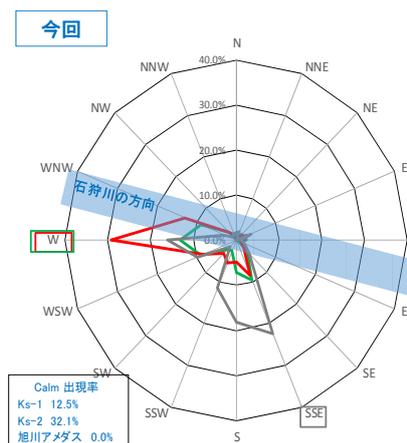


## 最多風向の比較

【秋季】



【冬季】



## 4) 鳥類調査結果

- 「鳥類相調査」 (どんな種が生息するか確認) を実施しました。
  - ルートセンサス：一定のルート歩く調査
  - 定点調査：特定の定点で30分間の観察を行う調査
- 調査は12月4日～5日と2月17日～18日に実施しました。



9

## 4) 鳥類調査結果

- 樹林部ではハシブトガラやシジュウカラ、水辺環境ではマガモやコガモ、石狩川側ではハクセキレイやスズメなどが確認されました。
- 重要種は、前回秋に観測されたミコアイサが石狩川側で、オジロワシが西側市街地上空で確認されました。前回確認された、ハイタカとオオワシは確認されませんでした。
- 特定外来種は確認されませんでした。

- 千鳥ヶ池は部分的に結氷しており、特に2月はオジロワシの採餌対象となるカモ類が利用するにはあまり適した状態ではなかった。



ハシブトガラ



マガモ



コガモ



オジロワシ

10

## 5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果

- 「両生類・は虫類・哺乳類相調査」(どんな種が生息するか確認)を実施しました。
  - 目視・痕跡調査: 範囲内を歩いて個体や足跡・ふんなどの痕跡を確認する調査
- 調査は2月16日~18日に実施しました。



※冬期はネズミ類捕獲調査は実施していません。



11

## 5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果

- 哺乳類のキタキツネが確認されました。
- 重要種や特定外来種の確認はありませんでした。



キタキツネの足痕

12

## 6) 中間総括 (秋・冬季)

※第3回常磐公園自然環境調査ワークショップより

項目	評価
植物 昆虫類	確認種の入替わりはあるが、公園という人為的な影響が強い場であるためと考えられる。重要種・外来種を含めた全体的な状況からは特に整備前後で環境が大きく変わったような事は無いと考えられる。
鳥類	確認種の入替わりはあるが、もともと出現頻度が低い猛禽類や都市近郊で普通に見られる種であり、公園への依存度が高い種では無いことを反映していると考えられる。重要種を含めた全体的な状況からは、特に整備前後で環境が大きく変わったようなことは無いと考えられる。
両生類 爬虫類 哺乳類	もともと確認種が少なく、整備前後でほぼ同様の結果であった。重要種であるヤマコウモリが継続してねぐら利用をしていることが確認されている。
微気象	基本的な風速・風向等の条件が整備前後で異なっていたために単純比較ができないが、公園内外で違いとして内部の方が風速が弱い点では整備前後で変わりは無かった。

13

## (2) ブッシュについて

池の下流で水辺が陸続きとなっている範囲を融雪後に試行的に造成します（巻末資料参照）。

- ・境界ラインに鉄ピントラロープで囲います。
- ・設置後は草刈り等の管理を行いません。（園路際除く）
- ・水路際の石張護岸は現在のところ取り壊しの予定はありません。

### 検討ポイント

- ・設置の方法
- ・周知の方法
- ・設置後の観測など
- ・（次段階へのタイミング）
- ・（今後の展開について）



鉄ピントラロープ設置例

14

# ブッシュ設置位置



## 【参考】ブッシュに近い区域（Cブロック）の特徴

項目	評価
植物	このブロックのみで観測された種はないが、特定外来種であるオオハンゴンソウやフランスギクがこのブロックのみ観測されていない。 (ブッシュ範囲内は)高木がほぼない。
鳥類	(ブッシュ範囲内は)高木がほぼなく、ブロック内でも鳥類が営巣などで利用してる樹木はない。
魚類 両生類等	モツゴ・コイが観測されている。池の中で緊急対策外来種であるミシシippアカミミガメが観測されているので侵入してくる可能性がある。
昆虫類	重要種であるチャイロスズメバチが観測されている。特定外来種は観測されていない。カントンはこのブロックでは観測されず、前回の夏調査にて河川敷の河原で観測されている。



17

### (3) いただいた御意見から

巻末資料1「いただいた御意見まとめ」を御覧ください。

御意見の中から、来年度開催案について

- ・公園全体の定点観測について  
(巻末資料2)平成28年度更新樹木
- ・カントンの食草であるヨモギ類について (巻末資料3)  
をとりあげてみたいと思います。

## IV まとめ

- 1) 意見など
- 2) 次回について
  - ・平成29年6月下旬を予定
  - ・新年度募集方法について

18

第 3 回 常磐公園の緑を考える集い いただいた御意見まとめ

項目	御意見	回答・方針等
<p>樹木の更新について</p>	<p>常磐公園内にもう少し緑が欲しい。 植林して「自然観察」が出来ようにする。</p> <p>前回、点在する切株について、除去するためにあえて残してあるとの趣旨のお話がありました。そろそろ 100 年先の姿を考慮し、郷土樹の中から植栽を始めたらいかがでしょうか（中経木）。</p> <p>公園の主演である樹木について、学ぶ必要がある。 （市民への啓蒙） （1） 密度管理を学ぶ 部分的に密度が高い箇所がある。早めに対策を講ずるべきである。処理費も増大するし、保存される樹木の形質にも悪影響を及ぼす。間引きの必要性を学ぶ機会を望みたい。 （2） 老齢木の危険度の判定を学ぶ 感情論ではなく理論的・学術的に樹を伐ることの妥当性を学ぶ機会を設けるべきである。</p>	<p>更新する樹木の周辺状況やタイミングについて、次年度以降協議していきたいと考えています。</p>
<p>外来種対策について</p>	<p>帰化植物は、基本的にないことが望ましい。しかし、ムラサキツメクサやシロツメクサのように子供の遊びの中で古くから定着しているものもあり、除去対象を選択すべきである。</p> <p>除去が望ましいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人に危険性のある草本 （例）強いトゲのあるアメリカオニアザミなど</li> <li>・ 花粉症となる草本 （例）オオアワダチソウ、ブタクサ、ヨモギ類、カモガヤなど</li> <li>・ 繁殖力が強く他の植物の生育に影響を与える草本 （例）オオアワダチソウなど</li> </ul> <p>注：ヨモギ類は旭川市の昆虫であるカンタンの食草であり、ブッシュの中の小群落はありと思う。</p> <p>自然発生する帰化植物を完全に除去することは、ほとんど不可能であり、一定量の抑制にとどめ、無駄な経費の投入は避けるべきである。</p>	<p>オオハンゴンソウなどの継続的な除去活動が必要なものを含め、次年度以降協議していきたいと考えます。</p>

項目	御意見	回答・方針等
定期観測について	<p>緩傾斜区域内の移植樹、新たに植栽した樹木の生長を観察し記録することが、これからの緑に対する対応策として必要と思われます。限られた区域でなく公園全体をみることも大切と感じます</p> <p>定期観測は必要だと思います。</p> <p>冬で言えば、池のこおりが張るのが早く、その為、魚を捕る事が出来ない渡り鳥がいる（ただの休憩なのでは？）などのお話聞くことがあります。以前と違った環境になってきているのかな？と思うので、観測を継続的に取り組むことは大切だと思います。</p>	<p>定期観測の有効性は高いと考えていますので、今回協議していきたいと思います。</p>
公園の管理について	<p>緩傾斜区域のスロープを自転車で利用の方の中に、スピードが出ていて、歩行（散歩等）の方、小さい子供や体の不自由な方たちの危険な様子がみられましたので、スロープの使い方について御検討いただけたらと思います。</p> <p>冬の公園も、散歩の方、ウォーキングの方、保育園児など多くの方が利用しています。</p> <p>ただ、コースが夏のように全てが歩けるようになってはいないので、単調と言う意見もありました。堤防の部分でもいいので開放し、又、テニスコートの方も通れるようになるといいのかなと感じました。御検討いただけたらと思います。</p> <p>冬に公園に訪れて思いました。</p> <p>散歩する人が多いです。単調な道だけでなく、あちこち行ける道をつけて冬の公園を楽しみたいです。</p> <p>冬まつりだけでなく、日常遊べる公園として子供たちに利用してほしいと思います。</p>	<p>次年度以降、その状況を確認し、危険であれば看板の設置などの対応を行います。</p> <p>冬の道につきましては、今後要望の声が大きくなれば、整備を検討したいと思います。</p>
その他（自然環境）	<p>天然下種更新について、28年の失敗？を反省し29年はどうするのか。去年は設置の場所、時期、対象が不明確のまま設置されていた。</p> <p>北邦野草園のように、草花の咲いている特定の地域のみ、草名や花の名前等の看板があれば、子供たちでも楽しく覚えられて興味がわくと思います。</p> <p>季節毎の風景や、生きもの、木、植物などを多くの人に知ってもらいたいです。</p> <p>千鳥ヶ池の浄水（池の水が濁っている。）</p> <p>池の水をきれいにしてくれる魚を入れる。</p> <p>「町の中のオアシス」的な所にする。</p>	<p>現在市で行っている自然環境調査の結果をもとに、花や虫、（活動内容）等をホームページやパンフレット等で広く周知していきたいと考えています。</p> <p>定期管理は行っております。</p>

# 平成28年度 更新樹木 (平成27年度移植木)



更新前



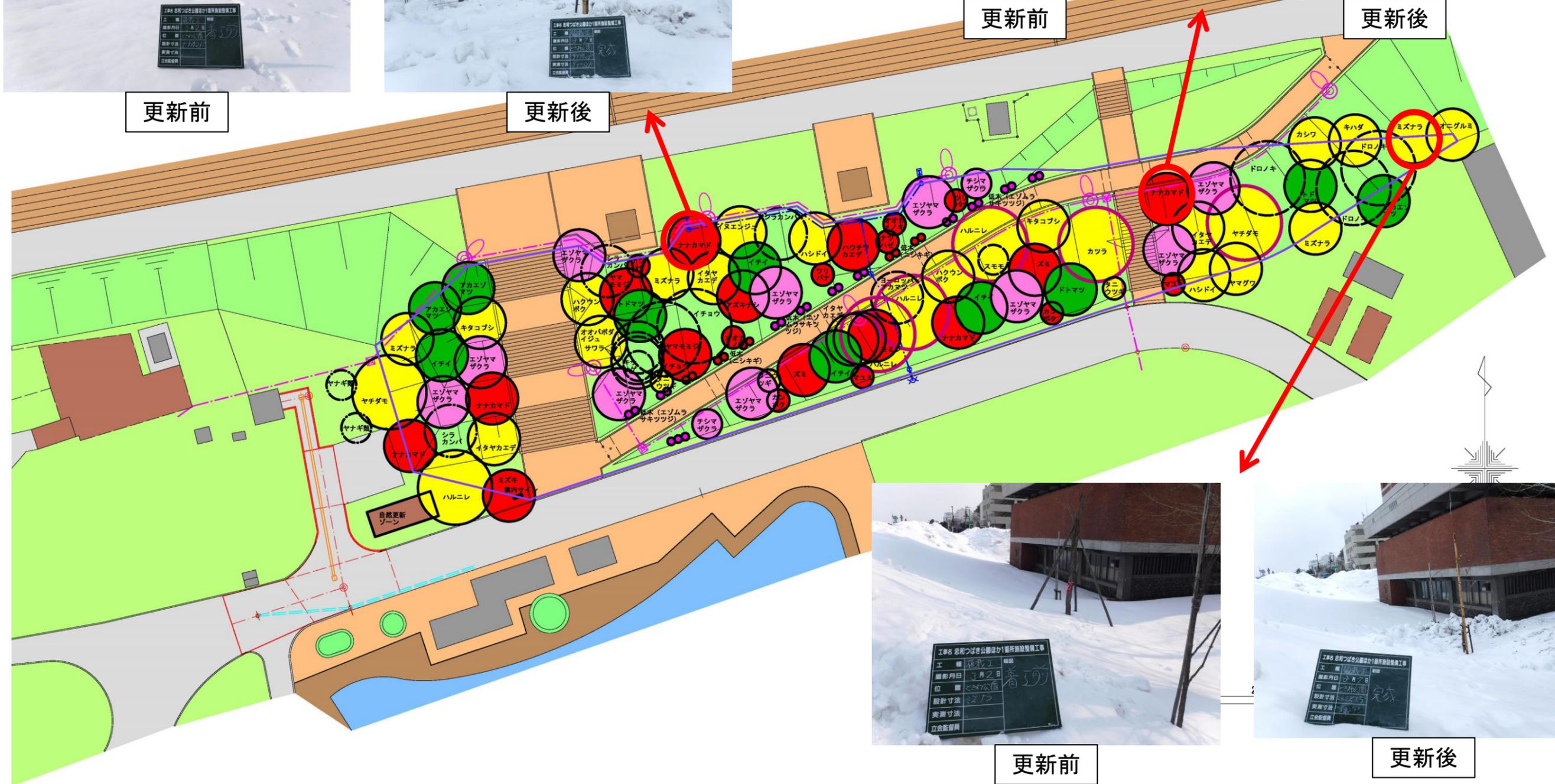
更新後



更新前



更新後



更新前



更新後

### 市民の花「ツツジ」



ツツジ

郷土種としてはエゾムラサキツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジなどがあり、北海道の山地に自生しています。エゾムラサキツツジの花は紫紅色で春の先がけをつとめるもので、春一番に咲きほこります。一般的に育てやすいものにレンゲツツジがあり、5月下旬から6月上旬にかけて咲きほこり、花の色は普通朱紅色です。

### 市民の木と市民の花の制定の由来(昭和51年4月1日制定)

「ナナカマド」の花言葉は「安全」昭和39年から青年会議所が中心となって「ナナカマド運動」を展開、以来各家庭、公共施設等の緑化に率先してとり入れられ市民に定着しています。

「ツツジ」の花言葉は「情熱」昭和44年に市の園芸センターで大量増殖・育成を手がけ、昭和48年には、この育った苗が中国にわたり友好親善の役割を果たし、また、昭和51年には、全市各家庭、関係施設に無料配布され、その後も各施設に積極的にとり入れられています。

### 市民の鳥と市民の虫

#### 市民の鳥「キレンジャク」



キレンジャク

市民の木として、すでに市民の中に定着しているナナカマドとかがわりが深く、厳寒のころ、緑道、公園、宅地などのナナカマドの実にキレンジャクが群がる光景は冬の風物詩として広く市民に知られています。キレンジャクは冬の間日本に渡ってくる冬鳥で、ブドウ色の地にパステルカラー調の赤と黄の配色が美しく、また、冠羽が風になびく姿は独特です。

#### 市民の虫「カンタン」



カンタン

比較的北方系の昆虫で、全国的に分布しているが、本州では高原のような高いところではしか見られないのに対し、北海道では平地で見られ、河川敷や市街地の緑道まで進出しています。

「ルルル」と可憐な低い声で鳴き、スズムシ、マツムシと同様に秋に鳴く代表的な虫です。

### 市民の鳥と市民の虫の制定の由来(昭和53年9月1日)

市民一人一人が自然を愛し、自然と対話できるようなまちづくりを、ということから、昭和53年4月から「市民の鳥・虫」の選定作業を進めていました。

「旭川市民の鳥・虫選定懇話会」は市民の意見を参考にして、自然保護のシンボルとして市民の鳥には「キレンジャク」、市民の虫には「カンタン」が最もふさわしいと8月5日に市長に具申しました。

これを受けて市長は同年9月1日、市民の鳥は「キレンジャク」、市民の虫は「カンタン」とすることを正式に決定告示しました。